

光市の地産地消に関するアンケート調査 調査票（消費者向け）

※Web回答はこちらから
回答はWebか紙1回のみ



「地産地消」とは

地域で生産されたものを地域で消費する取組のことです。
地産地消には、次のような利点があります。

- ・新鮮な季節の味覚を味わえる。
- ・生産状況を確認でき、安心感が得られる。
- ・地元経済が活性化される。
- ・輸送距離が短く、環境に優しい。等



▲関連SDGsの一部
地産地消の取組は、
SDGs（持続可能な開発目標）
の達成にもつながります。

*****ここからが設問です*****

I 基本情報

(1)お住まいの地域	① 牛島、室積、光井 ② 三井、周防、上島田 ③ 浅江、島田、中島田	④ 岩田、三輪、塩田、束荷、岩田立野 ⑤ 市外（市・町・村） ⑥ 浅江、島田、中島田
(2)年齢	① 10歳代・20歳代 ② 30歳代 ③ 40歳代	④ 50歳代 ⑤ 60歳代 ⑥ 70歳代以上

II 買い物の動向（購買・消費動向）

(3)農産物（米・野菜・果物・きのこ類等）・ 海産物（魚貝・水産加工品等）等 を購入する上で、何を重視してい ますか。 <u>（〇は3つまで）</u>	① 鮮度 ② 価格 ③ 旬や季節感 ④ 色や形	⑤ 産地や生産者 ⑥ 無農薬（減農薬） ⑦ 天然・養殖 ⑧ その他（ ）
(4)農産物・海産物等の産地が「光市 産」であることをどのくらい意識 していますか。	① かなり気にしている ② ある程度気にしている	③ あまり気にしていない ④ 全く気にしていない
(5)スーパーマーケットの「地場産コ ーナー」をどのくらい利用してい ますか。	① よく利用している ② 時々利用している ③ あまり利用していない ④ 利用していない	

(6)農産物や海産物を主にど こで購入していますか。 利用頻度や理由と合わせ て教えてください。	購入先	利用頻度 購入先ごとに 1つ記入	理由 購入先ごとに 3つまで記入
	【記入例】スーパーマーケット	①	B C D
	スーパーマーケット		
	商店（米屋・八百屋・果物屋・魚屋等）		
	JA山口県華さい来んさい！光店		
※「共同購入」とは、生協や CO・OP（コープ）と呼 ばれる生活協同組織による 購買事業などのこと	里の厨		
	共同購入*やインターネット（宅配）		
	その他（ ）		
	利用頻度 （購入先ごとに 1つ選んで記入してくだ さい）	① 普段の買い物で、利用している ② 週末のまとめ買いなどで、利用している ③ 近くに行ったときに、利用している ④ あることは知っているが、利用していない → ⑤ あることを知らず、利用したことがない →	【対応理由】 A～H I～P 理由の記入不要
	理由 （購入先ごとに 利用頻度に応じた理由を 3つまで選んで記入して ください）	【利用している理由】 A 旬の新鮮なものがある B 価格が安い C 品揃えが多い D 便利な場所にある E 美味しいものがある F 安心感がある G 営業時間が長い H その他	【利用していない理由】 I 品物にばらつきがある J 価格が高い K 品揃えが少ない L 不便な場所にある M 包装など見た目が悪い N 不衛生な感じがする O 営業時間が短い P その他

III 加工・6次産業化に関する意識

(7)あなたが思い浮かべる 「光市を代表する農林水 産物」は何ですか。 <u>（〇は3つまで）</u>	① 米 ② 麦 ③ 大豆 ④ イチゴ ⑤ ウメ	⑥ バナナ ⑦ しいたけ ⑧ ハモ ⑨ 白イカ ⑩ カレイ	⑪ ひじき ⑫ タイ ⑬ その他 （ ） ⑭ 思い浮かばない
(8)地元産の食材を活用した 商品で買いたいと思うア イデアはありますか。 例 光市産イチゴを使った甘酒など	（思いつくアイデアがありましたら、ご自由にお書きください）		

裏面に続きます→

光市の地産地消に関するアンケート調査 調査票（生産者向け）



▲Web回答

市では現在、地産地消を推進するため、取組の指針となる「第4次地産地消プラン」を策定しています。

このアンケートは、市に関わりのある農林漁業者の皆様の地産地消に対する意識や生産に対する考え方などをお聞きし、頂いた意見を基に今後の市の施策を検討するなど、市の地産地消をより推進していくために実施するものです。

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年8月 光市

【ご記入にあたってのお願い】

●回答は、①～③のいずれかの方法で8月14日（日）までに1回のみお願いします。

- ① 右上のQRコードから回答
- ② 本調査票に記入し、里の厨事務所の回収BOXに投函
- ③ 本調査票に記入し、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函

●このアンケートは、「里の厨」と「菜さい来んさい！光店」の出荷者等の皆様に送付しています。

それぞれの店舗から送付しますので、2通届く場合もありますが、回答は1人1回答まででお願いします（2通目は回答不要）。

●回答は設問ごとに、番号に○（マル）印をつけてください。設問によっては、○印をつける数など、回答方法が異なりますので、ご注意ください。

●ご本人の回答が難しい場合は、ご家族などの協力によってご回答いただければ幸いです。

●集計結果は公表しますが、個人に関わる情報が公表されることはありません。

地産地消とは

地産地消とは、地域で生産されたものを地域で消費する取組のことです。

地産地消の取組は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成にもつながります。



▲関連SDGsの一部

【問い合わせ先】

光市経済部農林水産課農政係 田村
TEL：0833-72-1494



*****ここからが設問です*****

I 基本情報

(1)お住まいの地域	① 牛島、室積、光井	④ 岩田、三輪、塩田、束荷、岩田立野
	② 三井、周防、上島田	⑤ 市外（市・町・村）
	③ 浅江、島田、中島田	
(2)年齢	① 10歳代・20歳代	③ 40歳代 ⑤ 60歳代
	② 30歳代	④ 50歳代 ⑥ 70歳代以上

(3)生産・出荷している品目は何か。生産規模と合わせて教えてください。	① 米	品目	:	a
	② 野菜（果菜・葉物・根菜等）	品目	:	a
		品目	:	a
		品目	:	a
	③ 果物	品目	:	a
	④ 花き	品目	:	a
	⑤ きのこと類	品目	:	a
	⑥ その他（ ）	品目	:	a

II 生産・出荷の現状

出荷先	理由
【記入例】① JA	A E G H
① JA	
② JA山口県菜さい来んさい！光店	
③ 里の厨	
④ 卸売市場	
⑤ その他（ ）	
理由 （出荷先ごとに、理由をすべて選んで記入してください）	A 単価が高い G 量が多くても出荷できる B 規格外が出荷できる H 量が少なくても出荷できる C 出荷できる日が多い I 価格を自分で決められる D 出荷時間の都合がよい J 出荷品種に制限がない E 出荷場所が近い K その他 F 集荷がある
※出荷していない店舗には理由の記入は不要	
(5)5年後の経営（農林産物の生産と出荷等）規模の予定を教えてください。	① 拡大 ④ 廃止 →(7)へ ② 維持 →(6)へ ⑤ 後継者に継承 ③ 縮小 →(7)へ

【(5)で「維持」と答えた方に、お聞きします。】

(6)機械や園芸施設を新たに導入できれば、経営拡大が図れますか。	① はい ② いいえ（導入するつもりがない場合を含む。）
----------------------------------	---------------------------------

【(5)で「縮小」「廃止」と答えた方に、お聞きします。】

(7)経営を「縮小」「廃止」していく理由で一番大きなものは何ですか。	① 年齢的な問題 ④ 鳥獣被害（イノシシ・サル等） ② 後継者がいない ⑤ その他（ ） ③ 収益が上がらない
------------------------------------	---

裏面に続きます→

⑧ 農業生産において、どのようなことを重視していますか。 <u>(あてはまるものすべてに○)</u>	① 鮮度 ⑦ 経費（コスト）を抑える ② 味 ⑧ 有機・減農薬栽培 ③ 色・形 ⑨ 作業の効率化 ④ 土壌分析 ⑩ 消費者の動向 ⑤ 農薬の適正使用 ⑪ 休日の確保 ⑥ 肥料の適正使用 ⑫ その他（ ）
⑨ 現状、農業をする上で、問題点（困っていること）は何ですか。 <u>(○は3つまで)</u>	① 加齢による体力の低下で作業が難しい ② 草刈作業が負担になっている ③ 圃場の水はけが悪い ④ 圃場が不整形・小さいため、作業効率が悪い ⑤ 農道・水路が破損・老朽化している ⑥ 機械・施設等が破損・老朽化している ⑦ 販売価格が安く収益が上がらない ⑧ 栽培技術が不足している ⑨ 資材・人件費の高騰により経費が増えている ⑩ 地域の担い手が不足している（若い人がいない） ⑪ 経営の後継者がいない ⑫ 相談できる人がいない ⑬ 鳥獣被害（サル・イノシシ等）が深刻 ⑭ その他（ ）

Ⅲ 加工・6次産業化に関する意識

⑩ あなたが思い浮かべる「光市を代表する農林水産物」は何ですか。 <u>(○は3つまで)</u>	① 米 ⑥ パナナ ⑪ ひじき ② 麦 ⑦ しいたけ ⑫ タイ ③ 大豆 ⑧ ハモ ⑬ その他 ④ イチゴ ⑨ 白イカ （ ） ⑤ ウメ ⑩ カレイ ⑭ 思い浮かばない
⑪ 地元産の食材を活用した商品のアイデアはありますか。 ※光市産イチゴを使った甘酒など	（思いつくアイデアがありましたら、ご自由にお書きください）

Ⅳ 地産地消に対する認識と取組

⑫ 「地産地消」に関心がありますか。	① 関心がある ② どちらかというと関心がある ③ あまり関心がない ④ 関心がない ⑤ そもそも地産地消を知らない
--------------------	--

⑬ 地産地消に取り組んでいますか。	① 取り組んでいる →(14)へ ② 取り組んでいない →(15)へ
-------------------	---------------------------------------

【(13)で「取り組んでいる」と答えた方に、お聞きします。】

⑭ どのように地産地消に取り組んでいますか。 <u>(○は3つまで)</u>	① 地元の方へ直接販売している ② 地元の販売所へ出荷している ③ 地元の料理店へ出荷している ④ 地元の加工業者へ出荷している ⑤ その他（ ）
---	--

【(13)で「取り組んでいない」と答えた方に、お聞きします。】

⑮ 地産地消に取り組んでいない理由は何ですか。 <u>(○は3つまで)</u>	【①～⑤は地元店舗等に関する理由】 ① 出荷量の規定がある ⑤ 出荷品種に制限がある ② 単価が低い ⑥ 何が地産地消かわからない ③ 単価が決められない ⑦ その他 ④ 出荷可能な日が少ない （ ）
--	---

⑯ 光市の地産地消をより進めていくために、今後、必要なことは何だと思いますか。 <u>(○は3つまで)</u> ※1 GAP（ギャップ） 農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと。 ※2 グリーンツーリズム 農山漁村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。	① 消費者の好みにあった作物や品種を生産する ② 他生産者と連携し、特定の品目の産地化・ブランド化を図る ③ 生育管理や病害虫防除など栽培技術を向上する ④ 有機・減農薬栽培に取り組む ⑤ 学校給食等に向けて生産・納入量を確保する ⑥ GAP（ギャップ※1）による農業生産工程・管理を導入する ⑦ 生産者自身が加工や販売を行う6次産業化に取り組む ⑧ 加工業者への加工委託による生産物の高付加価値化に取り組む ⑨ 市民（子どもや消費者）が生産過程を見学できる機会を提供する ⑩ 農業・加工体験など消費者との交流イベントに参加する ⑪ 観光農園や消費者への対面販売などを実施する ⑫ 観光農園や農家レストラン・農泊などのグリーンツーリズム※2に取り組む ⑬ その他（ ）
--	---

ご協力ありがとうございました。

皆様の貴重なご意見を活用し、光市における今後の地産地消の推進につなげていきます。
この調査票は、**8月14日までに**里の厨事務所内の回収BOXに投函するか、同封の返信用封筒に封入してポストに投函してください。

※Webで回答がお済みの方は、本調査票の投函は不要です。

光市の地産地消に関するアンケート調査 調査票（生産者向け）



▲Web回答

市では現在、地産地消を推進するため、取組の指針となる「第4次地産地消プラン」を策定しています。

このアンケートは、市に関わりのある農林漁業者の皆様の地産地消に対する意識や生産に対する考え方などをお聞きし、頂いた意見を基に今後の市の施策を検討するなど、市の地産地消をより推進していくために実施するものです。

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年8月 光市

【ご記入にあたってのお願い】

●回答は、①、②のいずれかの方法で8月14日（日）までに1回のみお願いします。

- ① 右上のQRコードから回答
- ② 本調査票に記入し、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函

●このアンケートは、漁協光支店の組合員の皆様にお配りしています。

●回答は設問ごとに、番号に○（マル）印をつけてください。設問によっては、○印をつける数など、回答方法が異なりますので、ご注意ください。

●ご本人の回答が難しい場合は、ご家族などの協力によってご回答いただければ幸いです。

●集計結果は公表しますが、個人に関わる情報が公表されることはありません。

【問い合わせ先】

光市経済部農林水産課農政係 田村

TEL：0833-72-1494



「地産地消」とは

地域で生産されたものを地域で消費する取組のことです。

地産地消には、次のような利点があります。

- ・新鮮な季節の味覚を味わえる。
- ・生産状況を確認でき、安心感が得られる。
- ・地元経済が活性化する。
- ・輸送距離が短く、環境に優しい。等



▲関連SDGsの一部

地産地消の取組は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成にもつながります。

*****ここからが設問です*****

I 基本情報

(1)お住まいの地域	① 牛島、室積、光井	④ 岩田、三輪、塩田、束荷、岩田立野
	② 三井、周防、上島田	⑤ 市外（市・町・村）
	③ 浅江、島田、中島田	

(2)年齢	① 10歳代・20歳代	④ 50歳代
	② 30歳代	⑤ 60歳代
	③ 40歳代	⑥ 70歳代以上
(3)現在、営んでいる漁法は何ですか。 <u>（あてはまるものすべてに○）</u>	① 小型底引き網漁	⑥ 刺網漁
	② はえ縄漁	⑦ かご漁
	③ 建網漁	⑧ たこつぼ漁
	④ いか巣漁	⑨ なまこ漁
	⑤ 素潜り漁	⑩ その他（ ）

II 生産・出荷の現状

(4)水産物をどこに出荷していますか。出荷している理由と合わせて教えてください。 <u>（あてはまるものすべてに○）</u>	出荷先	理由
	【記入例】① 光市場	A E G H
	① 光市場	
	② 光以外の市場	
	③ 卸売業・加工業者	
	④ その他（ ）	
理由 <u>（出荷先ごとに、理由をすべて選んで記入してください）</u>	A 単価が高い	F 出荷品種に制限がない
	B 規格外が出荷できる	G 量が多くても出荷できる
	C 出荷できる日が多い	H 量が少なくても出荷できる
	D 出荷時間の都合がよい	I 価格を自分で決められる
	E 出荷場所が近い	J その他
※出荷していない店舗には理由の記入は不要		
(5)5年後の経営（水産物の生産と出荷等）規模の予定を教えてください。	① 拡大	④ 廃止 →(7)へ
	② 維持 →(6)へ	⑤ 後継者に継承
	③ 縮小 →(7)へ	

【(5)で「維持」と答えた方に、お聞きします。】

(6)漁具や漁船を新たに導入できれば、経営拡大が図れますか。	① はい
	② いいえ（導入するつもりがない場合を含む。）

【(5)で「縮小」「廃止」と答えた方に、お聞きします。】

(7)経営を「縮小」「廃止」していく理由で一番大きなものは何ですか。	① 年齢的な問題	③ 収益が上がらない
	② 後継者がいない	④ その他（ ）

裏面に続きます→

⑧漁業生産において、どのようなことを重視していますか。 <u>(あてはまるものすべてに○)</u>	① 鮮度 ② 色・形 ③ 経費（コスト）を抑える ④ 作業の効率化 ⑤ 消費者の動向 ⑥ 休日の確保 ⑦ その他（ ）
⑨現状、漁業をする上で、問題点（困っていること）は何ですか。 <u>(○は3つまで)</u>	① 加齢による体力の低下 ② 漁獲量が上がらない ③ 魚価の低迷 ④ 漁具・燃料費の高騰 ⑤ 経営の後継者がいない ⑥ 地域の担い手不足（若い人がいない） ⑦ 相談できる人がいない ⑧ その他（ ）

Ⅲ 加工・6次産業化に関する意識

110) あなたが思い浮かべる「光市を代表する農林水産物」は何ですか。 <u>(〇は3つまで)</u>	① 米 ⑥ バナナ ⑪ ひじき ② 麦 ⑦ いいたけ ⑫ タイ ③ 大豆 ⑧ ハモ ⑬ その他 ④ イチゴ ⑨ 白イカ () ⑤ ウメ ⑩ カレイ ⑭ 思い浮かばない
111) 地元産の食材を活用した商品のアイデアはありますか ※光市産イチゴを使った甘酒など	(思いつくアイデアがありましたら、ご自由にお書きください)

IV 地産地消に対する認識と取組

(12)「地産地消」に関心がありますか。	① 関心がある ② どちらかというに関心がある ③ あまり関心がない ④ 関心がない ⑤ そもそも地産地消を知らない
(13)地産地消に取り組んでいますか。	① 取り組んでいる →(14)へ ② 取り組んでいない →(15)へ

【(13)で「取り組んでいる」と答えた方に、お聞きします。】

14) どのように地産地消に取り組んでいますか。 <u>(〇は3つまで)</u>	① 地元の方へ直接販売している ② 地元の販売所へ出荷している ③ 地元の料理店へ出荷している ④ 地元の加工業者へ出荷している ⑤ その他 ()
--	---

【(13)で「取り組んでいない」と答えた方に、お聞きします。】

【例】「取引量が少ない」と言われた時に、何故でしょうか？

(15) 地産地消に取り組んでいない理由は何ですか。 <u>(〇は3つまで)</u>	【①～⑤は地元店舗等に関する理由】 ① 出荷量の規定がある ② 単価が低い ③ 単価が決められない ④ 出荷可能な日が少ない ⑤ 出荷品種に制限がある ⑥ 何が地産地消かわからない ⑦ その他（ ）
---	--

16) 光市の地産地消をより進めていくために、今後、必要なことは何だと思えますか。

(〇は3つまで)

※ ブルーツーリズム
島や沿海部の漁村地域において、自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

- ① 消費者の好みにあった種類の水産物の生産量を増やす
- ② 他漁業者と連携し、特定の品目の産地化・ブランド化を図る
- ③ 漁具や漁法など漁業技術を向上する
- ④ 学校給食等に向けて漁獲量・納入量を確保する
- ⑤ 漁業者自身が加工や販売を行う6次産業化に取り組む
- ⑥ 加工業者への加工委託による生産物の高付加価値化に取り組む
- ⑦ 漁業・加工体験など消費者との交流イベントに参加する
- ⑧ 消費者への対面販売などを実施する
- ⑨ 漁師レストラン・宿泊体験などのブルーツーリズム※に取り組む
- ⑩ その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

皆様の貴重なご意見を活用し、光市における今後の地産地消の推進につなげていきます。

この調査票は、**8月14日までに同封の返信用封筒に封入してポストに投函してください。**

※Webで回答がお済みの方は、本調査票の投函は不要です。